

第 18 回 観光戦略実行推進タスクフォース 議事要旨

1 . 日時：平成 30 年 2 月 20 日（火）14：15～15：15

2 . 場所：官邸 2 階大ホール

3 . 出席者：

（政府側）

菅内閣官房長官、石井国土交通大臣、梶山内閣府特命担当大臣、山下内閣府大臣政務官、西村内閣官房副長官、野上内閣官房副長官、杉田内閣官房副長官、和泉内閣総理大臣補佐官、古谷内閣官房副長官補、田村観光庁長官、平井内閣官房内閣審議官、水嶋内閣官房内閣審議官兼観光庁次長、山根内閣官房行政改革推進本部事務局次長、頼内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長、平垣内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局企画・推進統括官、井野内閣府大臣官房総括審議官、日下内閣府政策統括官、北村内閣府沖縄振興局長、野村宮内庁長官官房審議官、加藤警察庁長官官房審議官、枘田警察庁交通局長、遠藤金融庁監督局長、川口消費者庁次長、角田復興庁統括官付審議官、武田総務省大臣官房総括審議官、佐々木法務省大臣官房審議官、宮川外務省大臣官房国際文化交流審議官、相星外務省領事局長、飯塚財務省関税局長、宮田文化庁長官、山崎文化庁文化財部長、吉永厚生労働省大臣官房審議官、荒川農林水産省農村振興局長、藤木経済産業省商務・サービス審議官、由木国土交通省総合政策局長、石川国土交通省道路局長、藤井国土交通省鉄道局長、奥田国土交通省自動車局長、亀澤環境省自然環境局長、槌道防衛省大臣官房審議官

（有識者・敬称略）

平良朝敬（一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー会長）、デービッド・アトキンソン（株式会社小西美術工藝社代表取締役社長）、前田幸夫（凸版印刷株式会社専務取締役）

（事業者・敬称略）

富田哲郎（東日本旅客鉄道株式会社代表取締役社長）、山木利満（一般社団法人日本民営鉄道協会会長）

4 . 議題：・各省庁における取組の報告

- ・世界水準の旅行サービスの実現
- ・観光資源の高度化に向けた V R の活用
- ・観光ビジョンに掲げた施策のより一層の推進に向けた有識者からのヒアリング

5 . 議事概要

○個別テーマ（鉄道・レンタカーに関する取組、観光資源の高度化）について、国土交通省鉄道局（資料 2）、国土交通省道路局（資料 3）、警察庁（資料 4）、文化庁

(資料5) 観光庁(資料5)より検討状況を説明。

平良氏より、ホテル等における外国人材の在留資格の緩和及び沖縄本島北部観光振興プロジェクト構想について(資料6) 資料に基づきプレゼン。

意見交換において、有識者及び事業者より以下のご発言あり。

【デービッド・アトキンソン氏】

- ・新幹線の無料 Wi-Fi の導入に感謝。
- ・ジャパン・レール・パスの多様化など利便性向上を図るべき。
- ・海外運転免許証にあわせて必要となる日本語翻訳文の取得容易化を図るべき。
- ・訪日外国人旅行者が地方観光地にアクセスするためには、レンタカーの活用が重要。
- ・世界遺産、国宝、重要文化財の解説案内板の整備を計画的に実施すべき。
- ・グローバルキャンペーンを通じて日本にビーチがあることを更に発信すべき。
- ・入国審査だけでなく税関についても、最先端技術を活用して待ち時間の短縮を図るべき。

【前田幸夫氏】

- ・文化財を観光・教育に利活用するため、さらに高次元の高精細のデジタルアーカイブ化を推進すべき。
- ・VR コンテンツの活用は、顧客の獲得とリピーターの創出において重要。
- ・インバウンドの目玉となる絵画や建造物等の文化財を創出するという観光戦略も必要である。

【富田哲郎氏】

- ・ジャパン・レール・パスの多様化について、地域限定のパスなども販売しているので、更なる情報発信、周知を行う。
- ・ジャパン・レール・パスで使用する新幹線指定席の海外でのインターネット予約については、一部新幹線では可能であるが、日本に来てからの手続き等、今後利便性向上に向けて検討していきたい。

○山下内閣府大臣政務官、梶山地方創生担当大臣、石井国土交通大臣、菅内閣官房長官よりご発言。主な内容は以下のとおり。

【山下内閣府大臣政務官】

- ・沖縄の観光は、本土復帰以来の取組により、沖縄のリーディング産業に成長してきたと考えており、沖縄の年間の観光客数は過去最高の 940 万人に達し、速報値でハワイを超えるなど、好調に推移している。
- ・内閣府では、沖縄振興一括交付金による航空路線の誘致や P R 事業のほか、新規事業として、交通モードの多様化に向けた取組や、地元の大学と連携した社会人の観光人材育成事業を平成 30 年度予算案に計上するなど、観光振興に係る様々な取組に対し、支援を行っている。

- ・また、平成 31 年度末の供用開始に向け、那覇空港第 2 滑走路整備事業を着実に進めるとともに、急増する大型クルーズ船の受入れを促進するため、港湾の整備も進めてまいり所存。
- ・引き続き、沖縄の観光の発展に取り組むことにより、我が国の観光立国の実現を強力に後押ししてまいりたい。

【梶山地方創生担当大臣】

- ・観光による地方創生を実現していくためには、地域の個性を活かした魅力ある観光地域づくりを進めるとともに、その地域の魅力を効果的に発信し、国内外の旅行者を全国各地に分散・拡大させ、地方への新しい「ひと」の流れをつくっていく必要がある。
- ・その中でも、本日のタスクフォースの議題となっている世界水準の旅行サービスの実現や、観光資源の高度化等は、団体旅行から個人旅行への移行、「モノ消費」から「コト消費」への移行といった旅行動態の変化に対応し、地方への旅行者の流れを創出するために重要な取組であると認識している。
- ・地方創生を担当する大臣として、関係省庁とも連携しながら、全国津々浦々への誘客を推進し、まち・ひと・しごとの創生と好循環を確立することで、地方創生を推進してまいりたい。

【石井国土交通大臣】

- ・本日の観光戦略実行推進タスクフォースでは、世界水準の旅行サービスの実現、観光資源の高度化に向けた VR の活用について、関係省庁から取組をご報告いただくとともに、有識者の皆様からご意見を頂いた。
- ・本日いただいたご意見も踏まえつつ、今後、国土交通省としても、新幹線における無料 Wi-Fi 環境の整備やジャパン・レール・パスの多様化、レンタカーの利用環境の充実など、インバウンド対応を一層促進すること、VR 等の最新技術を最大限活用して観光資源の高度化を図り、外国人の満足度を更に高めること等に官民一体となって取り組んでまいりたい。
- ・各府省庁におかれても、本日いただいたご意見を踏まえ、「観光ビジョン」に掲げられた施策を深度化・加速化していただけるようお願いしたい。

【菅内閣官房長官】

- ・本年は、2020 年 4,000 万人という政府の目標がいよいよ視野に入ってくる中であって、きわめて大事な一年である。そのためには、確実に出来ることを一つ一つ実行していくことが大事と考える。
- ・特に、地域の文化や自然を観光資源として高い次元で活用していくことが不可欠である。本日、報告のあった VR はその重要なカギであり、これを使ってどう誘客につなげていくか、官民が連携して活用策をしっかりと検討していく必要がある。
- ・また、交通サービスについては、多くの外国人に利用してもらうためには、まだまだ、課題が山積している。無料 Wi-Fi、共通乗車券、世界水準の観光列車の導入な

ど、利用者の目から見て当たり前のサービスが十分に提供されておらず、一刻も早く改善する必要がある。

- ・また、沖縄の観光客は、昨年初めてハワイを抜いた。みなさんのご努力のたまものであると考える。こうした中であって、観光による地方創生には、地域の主体的な取組みが欠かせない。沖縄の皆さんの豊かな自然や独自の伝統文化を活かした意欲的な取組みについて、政府としてもしっかりと支援させていただきたい。
- ・引き続き「常に先手を打っていく」との姿勢で、この国の観光をより高い次元に変えていくので、官民一体となって強力に進めていきたい。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

○水嶋内閣官房内閣審議官より閉会

- ・本日の第18回会合はここで閉会する。なお、次回日程は追って連絡する。

以 上